

3 年学年育友会

1 日 時	平成29年6月21日(水)	13:30~15:30
2 会 場	管理棟2階 ゼミナール室	
3 参 加 者	保護者177名	
4 内 容		

◆司会・進行 学年委員長 北倉 珠江

(1) 挨拶

◆育友会会長 若山 忠裕

- ・子供にとってこの1, 2年間は後の人生に大きな影響を与えるので、親としてできる限りサポートしたい。特に母親は多くの子供にとって一番の相談相手であるようである。
- ・子供の才能を一番伸ばす方法は動機づけであり、「何のために」どの大学で何を勉強するかをきちんと考えさせたい。そして、「あなたはやればできる」というメッセージを送り続け、最後まで志望を落とさず頑張るように応援したい。

◆教頭 竹中 和春

- ・本校は規律と品格を備えた文武両道を目指す生徒の育成を目指しており、社会に出てから一人の人間として生きていくことができるように、普段から勉強だけでなく身だしなみや挨拶などについても気を配り指導をしていきたい。
- ・部活動においても各種大会で数多くの素晴らしい成績をあげている。
- ・受験にむけて本校スタッフが一丸となって生徒をサポートしていくので、御家庭でも子供の精神的サポートをお願いしたい。

(2) 研修会

◆駿台予備学校 西尾 年史 氏

- ・最近の入試傾向は、地元志向、安全志向であり、就職に有利な分野や大学を選択することが多くなっている。また、就職率の上昇により理高文低から文高理低に移行している。学費が安く研究費などの配分が多い難関国公立大学への志望者は依然として高くなっており、私立大学においても難関私立大学へ志望が集中しているのがわかる。
- ・受験は人生最大のイベントであり、子供が親離れし、自分の力で成功をつかみ取ることによって努力する大切さに気付くという意味で大変有意義な機会である。そのため、子供には高い目標を設定し努力させることに意味がある。また地元にとどまるだけでなく、他の地域にでて多様な社会を経験することも子供の将来にとって大切である。
- ・近年、センター試験の平均点は低い傾向にあり、今後も大きな変化はないと考えられる。センターの結果で第一志望を落とすことがないように、センターの難問にも対応できるように訓練を積む必要がある。二次試験については、前期試験で第一志望校に挑戦できるように勉強を積む必要がある。
- ・5教科7科目の勉強を続けることが望ましい。3科目などに絞ると一つの科目の失敗が合計点に大きく影響を与えるリスクを負うので慎重に考えてほしい。
- ・難関国公立大学受験に必要な力は、必ずしも難問奇問を解ける力ではなく、基礎的な知識とそれを有機的に結び付ける力である。そのために、学校の勉強を第一に考え、復習、反復学習をして学力を蓄積することが重要である。
- ・社会から若者への要求は高まっており、社会が求める人材が備えるべき素養は、挑戦、志、コミュニケーション能力である。このようなニーズに応えられる大人になるためにも、受験を最後まであきらめずやり直し、その経験を通して人間的に成長することが求められる。親は子供のそのような姿をみることができるように見守ってほしい。

(3) 進路支援部より

◆進路支援部長 高橋 範行

- ・国公立大学の一般入試に関して、各大学によって必要な教科や配点は異なるため、早期の情報収集が大切である。
- ・「全員が第一志望合格」を目標としている。北高の伝統である最後まで諦めない指導をしていきたい。
- ・一人だけで受験勉強をするのは大変である。受験は団体戦という気持ちで、各クラスとも良い雰囲気の中、学習に取り組んでいる。
- ・補習や特編授業等、受験本番に向けて学校もサポート体制を整えている。どんどん活用してほしい。
- ・推薦入試については、それなりのリスクも伴う。慎重に検討していただきたい。

- ・家庭は安らぎの場所としてほしい。最後の最後まで、子供を信じて、励ましてほしい。必ず最後には力が伸びてくる。

(4) 学年主任より

◆3年学年主任 堀口 和人

- ・昨年度と比較して今年の3年生は4月調べの学習時間が多く、よく頑張っている。
(平日 2.7→3.1 休日 4.6→5.2)
- ・東大志望者8名、京大23名、名大94名と難関大学を目指す生徒も多い。このまま受験まで志望を変えずに受験させたいので協力をお願いしたい。
- ・子供の自立のために受験を任せるのはよいが、受験は情報戦でもある。子供の性格適性能力を見極めて正しい情報や力を貸しながら受験に臨んでもらいたい。

